

伊勢湾台風から学ぶ いま、私たちが「備える」こと

清流の国ぎふ
マスコットキャラクター
ミナモ



清流の国ぎふ
ミナモ通信

大災害をもたらした伊勢湾台風

昭和34年9月26日に岐阜県を縦断した伊勢湾台風。県内に最大瞬間風速44.2メートルの暴風とともに、非常に激しい雨をもたらし、各地で悲惨な爪痕を残しました。

伊勢湾台風から60年の節目の年にその教訓を学び、自然災害に備えましょう。

■問／県庁防災課 ☎058(272)1132



伊勢湾台風から60年 次世代へつなぐ防災・減災フォーラム

伊勢湾台風の語り部による体験談や日本気象協会の北村泰宏気象予報士の講演のほか、防災や減災について考えるパネルディスカッションなどを開催します。

と き 8月20日(火) 13:30~16:00 と ころ 県図書館

写真で振り返る伊勢湾台風 岐阜県図書館企画展

と き 8月6日(火)~9月1日(日) と ころ 県図書館

展示内容 被災状況写真、新聞記事、関連図書及び防災グッズ



台風で浸水した小学校(養老町)

数字から振り返る伊勢湾台風(県内)

死者・行方不明者／104人 被害総額／約500億円(当時)
住家の全・半壊、破損等／約23万戸

早め早めの避難で命を守る

災害が発生、もしくは発生するおそれがある場合、警戒レベルに応じた避難情報が各市町村や気象庁から発令されます。

災害が切迫してからの避難は危険なことがたくさんあります。まだ余裕があり、安全に移動できるうちに、避難することが重要です。特に台風は接近前に情報を得られます。「大丈夫かな?」と不安を感じたときが逃げ時です。そして、結果的に避難して何も起こらなくても、「何も無くて良かった」と言って帰宅できることが一番です。



岐阜大学 高木朗義 教授

「災害・避難カード」を作成しよう

災害時は慌てることなく、あらかじめ決めておいた避難行動がとれるようにしておくことが大切です。

「災害・避難カード」は万一来に備え、どのタイミングで、どのような経路で、どこに避難するかなどを事前に記入しておくカードです。

家族や地域で話し合いながら作成し、情報を共有して災害に備えましょう。

詳しくは

ぎふ 災害 カード

検索